# 武　一　中

令和７年 12 月 19 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－15 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/


# 「完璧じゃなくていい」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

**12/15 朝礼の話の感想を 135 人が書いてくれました。ありがとうございました。考えを共有しましょう。**

○つい完璧を求めがちだけど、意識し過ぎてしまうと良くないことに気がつけました。また、イチロー選手の話にあったように不完全は悪いことではなく前へ進めるための大事なことだと分かりました。

●最近疲れて何事にも完璧でないといけないと思っていたけれど、校長先生の話を聞いて少し心に余裕ができた

○私はスポーツでいつも他人の評価ばかり気にしていて、賞を取らなきゃ、とか、もっと頑張って、後輩たちにいいところ見せなきゃとかそのことばかりを気にしていました。もちろんそれらも大事なことです。でも今日の校長先生の話を聞いてみて、まずはそのスポーツを楽しむということを忘れてはいけないと感じました。なんでも完璧にやろうとするのではなく、もっと楽に考えてみようかなと思いました。

●自分も少し完璧主義みたいなところがあるけれど、失敗してもそれと向き合い対策することが大切だと思った！

○今日の話を聞いて完璧が一番ということではないことを考えることができました。不足しているからこそ頑張れることもあるので、「不完全」ということを恐れずに過ごして行きたいと思います。

●僕は普段授業中に発言などのことで失敗したら終わりくらいで思っていちゃったので、もっと失敗を恐れずに頑張りたいです。

○受験では一つのミスで合否が分れることがあるので自分はミスをすること＝悪い事という考えが定着していましたが、今日の校長先生の話を聞いてミスをすることは決して悪いことではなく、それで成長することができればよいのだということに気づかされました。

●「完璧」の語源は、大切な宝物を、傷つけずに持ち帰れたことだと聞いたことがある。つまり、もともとは「自分の使命をしっかり全うする」という意味である。転じて今のような意味になったらしいが、語源としては「完全無欠」というニュアンスはあまり含まれていない。私は語源を大切にしたいので、「自分の仕事をしっかりとこなす」という意識で、これからも「完璧」に取り組んでいきたいと、今日の話を聞いて思った。

○不足の美という言葉を初めて知った。自分は、周りの目を気にしてしまったり、間違えをしてしまった自分にムカついてしまったりするので、少し完璧主義な部分があるのかもしれないと思う。けれど、完璧じゃないから頑張る姿勢が大切なのだとわかった。

●完璧にしようとして期限に遅れるよりある程度は妥協して期限内に提出した方が評価が高い、みたいな話を聞いたことがあります。今日のお話もそれに通ずるものがあるなと思いました。遅れてでも完璧に出しなさい、と聞いたこともあるのですが結局どっちなんでしょうか。

○私はいつもノートを完璧に取ろうと必死だったが、今日の話を聞いて完璧じゃなくてもいいんだなと考え直すことができた。例え完璧でないまま提出してしまったとしても、校長先生が上司に直してもらったように、私も先生たちにどこを直せばよいかなどを聞いて、自分の学びにつなげていきたい。

●私は特に余白の美を感じることがよくあります。校長先生が資料としてだしていた日本画がとても印象に残りました。女性と木の間のわずかな隙間にはなにも描かれていないはずなのに、なんだか、女性と木をつなぐ糸のようなものが見えたような気がします。こうして、余白は見た人が自由に想像を膨らませ正解にとらわれずに楽しむことができるので、長く日本で愛されてきたのかな、と思いました。校長先生が余白に何を想像したのかも気になりました。

○自分は今までいろいろ完璧を求めてきたので、毎回完璧にはなれなかった自分をちょっと嫌だと思ってた。しかし、今回の話を得て、実際完璧を常に目指すのはほぼ不可能であり、それが悪いことじゃないということに気づいた。何でも完璧にする必要はない、もしかしたら、時によってその足りないところを持つことがもっと重要なのかもしれない。その足りないところを常に持って、これからも成長していきたいです。

●私はよく母から完璧主義と言われ、そこが自分の長所でもあり短所でもありました。しかし、今日の校長先生の話を聴いて自分にも他人にもあまり厳しくなくていいんだなと思えました。

○完璧主義な人と一緒にいるとしんどいときがあって、そういう意味でも全部が全部完璧にしなくてもいいと思いました。

●不完全だから人は前進し続ける、この言葉がとても良いと思いました。

○ミスがたくさんあるとき、誰かが「いいんだよ」などの言葉をかけてくれると嬉しくホッとしました。

●まだこの年なので不完全の良さも完全の良さもわからない。中途半端ぐらいでちょうどいいと思ってしまう。あと不完全も完全じゃないですか？背景をすこしだけにしてその質素な感じが良いということは、その不完全を目的とした完全だと思います。

○私は不足しているとだめだと思っていたので、今回の校長先生の話を聞いて少し安心しました。

●不完全だからこそまだ進むことができる言葉にとても納得がいくと感じた。不足の美は新しいことを発見させてくれる手がかりだと感じた。